第２分科会

話題:　品質をよくするための努力と課題、できること、やるべきこと・・・

参加者	自治体関係者	15 名
	中間処理関係者	10 名
	事業者関係者	7 名
	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ･書記	4 名
		計 36 名

テーマ:「品質をよくするための努力と課題、できること、やるべきこと」
話題提供者:羽村市　産業環境部　生活環境課長　加藤秀樹氏

ポイント

- 7 年 A クラス。限りなく容器比率を 100%に近づけるよう、日々努力している。
- 継続して市民に啓発すること。
- きめ細かく対策をとっている。
- 広報し、ホームページ、有線テレビ、戸別訪問し、PRしている。
- 品質維持レベルが上がっている。
- 有料で戸別、最終的には収集しない。シールを貼って絶対に収集しない。意識が薄い人に意識付けするにはそれが良い。
- プラだけでなく、硬質、軟質回収も始めている。
- 住民が解りやすいように、プラマークを色分けして欲しい。

品質を向上するために、市民啓発のポイント、また苦労していること等をそれぞれの立場から話してもらった。

自治体関係者から

- **羽村市のような規模と大きい規模の自治体とでは、羽村市と同じように徹底したことは難しい。しかし、なんらかの方法でやっていかないといけない。**
  - 汚れの付着（汚れある･なしの基準）について、どのように合格･不合格を決めているのか。
    - 異物がついているかどうか（洗っているかどうか）。
    - 洗って出すように周知（広報）しているが、徹底しない。
    - 普及啓発としては、汚れの基準について、どの程度の汚れか、油も汚れ、うっすらついている汚れは汚れではない。（チューブのもの、アルミ蒸着は燃やせるゴミ。）
  - 取り残しは、必ず持っていかないのか。
    - 収集しないシールを貼ったもの（分別していないもの）は、不公平感がでるので、絶

対に持っていかないよう徹底している。

- 手選別で大量に流すので、A ランク取れない。取り残しは、現在やっていない。将来的にはやりたいが、現状は無理。
- 違反シールを貼ったものは集めない。これを徹底しないといけないが、取り残しをしても 1 週間から 10 日すると、収集せざるを得ない。
- 平成 14 年にプラ組成調査を行ったが、かなりプラが入っていた。プラ中間処理施設設備を導入した当初は、市民の意識はなく、マークもない、鍋、マネキン、金属等、でたらめな分別を行っていたので、市に動いてもらった。軽いプラ、金物が落ちるコンベアを 2 本、手選別は 4 人体制。第 1 回目は A ランクになった。A ランクをとるには、手選別が必須。カミソリの刃 1 本入ったら、D ランク。異物率が８～９%から５～６%に減った。問題としては、カミソリの刃、使い捨てのライター、洗剤カップ、ハンガー。これらについて、目視で選別している。

●品質を上げる意味で、混合では難しい。単独回収にすることと、コンベアの長さと速度で品質が上がるのではないか。

- 平成 12 年 10 月から分別（プラ、PET）を開始し、その前に 400 回程、説明会を行った。ゴミステーションに出し、自治体が管理、立ち当番制、見張ることで、品質が良くなった。中間処理施設で、手選別していない。しかし、最近では、状態が良くなったが、都市部と田舎とでは差がある。都市部は入れ替えが多いので、分別が徹底しない。品質が若干落ちている。
- 平成 12 年に地区別収集にかえた。一つの事業者がやり、収集業者に責任を持たせることで、しっかりやってくれる。品目別にすると、業者が違うので、品質が上がらない。
- 混合収集して、選別圧縮保管施設で容リプラを取り除いていたが、けっしてAランクにはない。容リプラの単独回収にしてAランクになった。

●モデル地域でやっているところは、悩まされている。

- 昨年 4 月から、モデル地域 2 万世帯で行った。今年 4 月から全域で開始する。
- 平成 19 年 3 月にモデル地域 2 万世帯で行った。今年 4 月から全域で開始する。現在は、普及啓発を行っている。

●容リプラを集めるにも視覚障害者への対応も必要。これは課題である。各自治体では、ユニバーサルデザインのもの、点字の案内をしているところもあるが、事業者も含めて対応が必要ではないか。

- ユニバーサルデザインのもの、色分けがわからないので、一部、燃やせないゴミの袋を結ぶところに穴を開けている。また、点字で翻訳したものを作成している。
- プラは、中身の識別、製品の識別で、浮き文字と底に点字を入れている。（企業）

- 外国人の方へは、6ヶ国語の外国語別用のパンフレットを作成している。

●品質を上げるには、分別と選別が大事である。

- 分別では、市民啓発が必要。わかりやすい分別方法。
- 選別では、コンベアがカギ。長さと速度であり、速度が遅いと、きちんと選別できるのではないか。2～3 人では無理。
- 選別方法について、先に良いものを集めることと、異物だけを取り除くことでは、全く品質が違うのではないか。
- 収集・選別がキーワードになる。課題としては、取り残しをどこまで出来るか。取り残しても翌週で回収せざるを得ない。
  - 少しでも汚れがあれば、残す。定期的にごみの中身を見て、どのように分別すれば良いのか、市民に広報している。
  - 収集しないシールを貼ったもの（分別していないもの）は、不公平感がでるので、絶対に持っていかないよう徹底している。

中間処理関係者から

●23 区に処理施設を作るのは難しい。住民との理解が難しい。

- 都市の状況を見て、施設許可を取るのは困難。近隣住民の理解に全てがかかっている。（法律、住民、調整に時間がかかる。）
- 10 区については、容リプラでやっている。施設許可がなかなか取れないので、5 トン未満でやっている。

●品質を上げるのも難しい。

- トロンメル(回転式ふるい)や風力選別をいれなければ、無理ではないか。

●収集しないのが一番ではないか。今後、検討していくとレベルアップするのではないか。

- Aランクをとるには、排出段階での協力を得ないと無理ではないか。行政と中間処理とが協力して、品質をあげていく努力が必要ではないか。

- 戸別有料プラ、収集しないことで品質が上がっている。また、収集員が持ってくるか持ってこないかで決まる。
- 選別では、コンベアは動いていない。どういったものを持ってくるかで変わる。
- 説明会に来る人は、きちんと出す。来ない人は、広報が行き届いていない。最終的には、収集しないことが一番の広報ではないか。
- 有料化で戸別収集が良い。

●2 重袋の排出を禁止し、中身が見える袋に容リプラもした方が良いのではないか。

●2 重袋だと、異物を入れている場合もあるのでチェックが大変。

- 2 重袋の排出については、シールを貼っている。
- 出したときに中身が見えるようにすると、品質が向上するのではないか。

●透明な袋を採用できないか。

- 色つきの袋では、中身が見えるものは限界がある。透明な袋で出すのが一番ではないか。

●袋なしで、容リプラを出せる方法も検討できないか。

- 消費者団体は、レジ袋で出すのは（嫌う）。もったいない。資源用の袋、他の資源ごみ、容リプラはそのまま出すのが良いのではないか。
- 袋に入れる必要があるのか（容リプラは入れる必要はないのではないか）。

まとめ

●現実は、課題が大きい。

- 取り残しをどこまで出来るか。取り残しても翌週で回収せざるを得ない。品質を上げるには、分別と選別が大事である。どのように分別すれば良いのか、分別排出を徹底するには、市民への広報を徹底する必要がある。
- 出したときに中身が見えるようにすると、品質が向上するのではないか。
- 袋に入れる必要があるのか（容リプラは入れる必要はないのではないか）。
- 行政と中間処理とが協力して、品質をあげていく努力が必要ではないか。
- 容リプラを集めるにも視覚障害者への対応も必要である。
  - 品質をいかに向上させるか。それぞれの主体でやれることはしっかりやる。それが、全体の品質を向上できるのではないか。

※収集物の品質をあげても、最終的に何にリサイクルされるかが問題であると、懇親会のときに指摘されました。

－以上－